

⑨ 日本国特許庁 (JP)

⑩ 特許出願公開

## ⑪ 公開特許公報 (A)

昭59-79002

⑤Int. Cl.<sup>3</sup>  
F 01 C 9/00  
F 02 B 53/00

識別記号  
序内整理番号  
6552-3G  
W 6831-3G

⑥公開 昭和59年(1984)5月8日  
発明の数 1  
審査請求 有

(全3頁)

## ⑦振子形動力装置

⑧発明者 鈴木明

東京都板橋区徳丸 6-13-12

⑨特 願 昭57-187503

⑩出願人 鈴木明

東京都板橋区徳丸 6-13-12

⑪出願 昭57(1982)10月27日

## 明細書

## 1. 発明の名称 振子形動力装置

## 2. 本許請求の範囲

(1) (a) 振動板(1)の周辺にリング(2)を配置し、下端部に軸(3)を設ける。

(b) 扇形気筒(4)の中に、振動板(1)を配置する。

(c) 扇形気筒(4)の側壁に、クランク装置(5)を配置し、その連接杆(6)を振動板(1)に連結する。

以上のように構成された、振子形動力装置。

(2) クランク軸(7)に、モーター(14)等の駆動体を通絡した特許請求範囲第1項記載の振子形動力装置。

## 3. 発明の詳細な説明

この発明は、新規機構のエンジンに関するもので、その作動はピストンエンジンに似ているが、ピストンエンジンのよう、ガス圧を直線運動にして、クランクに伝導するのではなく、ガス圧を直接円運動にして、クランクに伝導す

るようとした装置に関するものである。

現在、各種のエンジンが開発研究されているが未だにピストンエンジンにまさるものは、できていないので、有実な排気ガス等に苦るしみながらも、一番多く使用されている。これは、他のエンジンに比べて、すぐれたものをもつてゐるためである。本発明は、このすぐれたピストンエンジンを基礎にして、ピストンエンジンに似た作動をしながら、ピストンエンジンよりも、或かにすぐれた性能を有する、新型のエンジンを提供しようとするものである。

いま、その構造を図面によつて説明すると、(d) 振動板(1)の周辺に、気密保持のリング(2)を配置し、下端部に軸(3)を設ける。

(e) 扇形気筒(4)の中に、振動板(1)を支点にして、左右に動くように配置する。

(f) 扇形気筒(4)の側壁に、クランク装置(5)を配置し、その連接杆(6)を振動板(1)に連結する。

それから、底面のクランク軸(7)のフランジ(8)やカム(9)を駆動するチャーン(10)、点火プラグ(11)、

吸気弁(12)、排気弁(13)等、エンジン駆動に必要なものは、従来のエンジンと同じである。

作動状態を説明すると、

扇形気筒(4)内で、ガスが発生すると、振動板(1)は動(5)を支持して、ガス圧で回転する。そうして連接杆(6)を押圧し、クラシク(8)を回転させる。その後はフライホイル(9)の慣性で、振動板(1)を押し返す。以上の動作を繰返すものである。

ここで、ピストンエンジンよりすぐれているのは、振動板(1)にある。ピストンの場合には、ガス圧を直線運動にかえているが、振動板(1)はガス圧を円運動にかえて、クラシク(8)に向に伝導するので、連接杆(6)は、全体が円状に動いてクラシク(8)を押圧するので、クラシク装置の欠点である死点の範囲が、ピストンの場合よりも小さくなる。これは、振動板が良いことになる。それから、振動板(1)は、軸(10)に支持されて、安定した運動をするので、ガスの受圧面積を必要以上に広くするために、低速回転でも、強力な回転力が得られるので、エントが防止される。又、完全燃焼で有効な排気

ガスの発生を防止することもできるものである。それから、本装置の扇形気筒(4)を、ひとつのタランクに星型や水平型に配置すれば、強力を回転力が得られる。それから、第3回のように、長い扇形気筒(4)の両側に、多数の吸排弁を設けて、同一のタランク壁(6)に、複数のタランク装置(4)を、並べて配置することができる。この装置は、振動板(1)の受圧面積が頗る広いので、低圧のステムでも、容易に動力が得られる。又タランク軸(10)に、モーター(14)等の駆動体を連結すると、高性能のポンプやコンプレッサー等が得られるものである。

以上説明したように、本装置は、構造が簡単で、燃るすぐれた機能を有し、現在、排気ガス等で、行き詰つたピストン式エンジンの代りに、ピストン型の良い基盤を受け継いで、新方向の途を開いた発明である。

#### 4. 図面の簡単な説明

第1回は、第2回のA-A線の断面図。

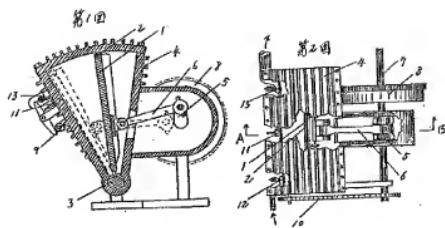
第2回は、1部初次した平面図。

第3回は本発明の実施試験の斜視図。

- 1は振動板
- 2はリング
- 3は軸
- 4は扇形気筒
- 5はタランク
- 6は連接杆

特許出願人 美木





第3図

